2018年度 名古屋大学 情報学部・情報学研究科 公開セミナー

「食」に迫る情報学の最前線

2018
11/17 sat

14:00→17:10（開場13:30）

受講料無料

会場 名古屋大学 東山キャンパス
IB電子情報館中棟 IB015講義室

笹原和俊
複雑系科学専攻
講師

食は人なり ー 計算社会科学の観点から

食や食の情報が溢れている現代、食の選択には、食べ物の好き嫌いだけでなく、個人の価値観や社会的態度が反映していると考えられます。そこで、ソーシャルメディアからオーガニック系の食を好むユーザー（フード左翼）とファストフード系の食を好むユーザー（フード右翼）を同定し、これらのユーザーの投稿内容と伝搬経路を分析しました。本発表では、ソーシャルデータから見えてくる、食とアイデンティティの関係についてお話しします。

井手一郎
知能システム学専攻
准教授

食コンテンツの情報処理

近年、料理レシピや画像、調理映像など、食に関するコンテンツがインターネット上で爆発的に増えています。これをうけて、これらのコンテンツを対象とした自然言語処理、画像・映像認識、データマイニングなどの解析技術、その結果を活用した検索、推薦サービス、さらには新たなコンテンツの生成支援に関するものまで、さまざまな研究が行われるようになりました。本講演では、講演者らが本学で実施しているものを含めて、その代表的なものについて紹介します。

中田龍三郎
心理・認知科学専攻
特任講師

鏡の前で食べると、一人の食事でもおいしく感じるのはなぜか？

一人で食事をするより誰かと食事をするほうが、おいしく感じることが知られています。この現象が生じるためには、一緒にいる人との関係性やムード（気持ち）、誰かと同じ行動をすることなどが重要であると考えられてきました。しかし必ずしもこれらは必要ではないようです。鏡の前で食べるとおいしく感じることを明らかにした実験など、「食事中に人の存在を感じる」ことによっておいしさが高まることを調べた一連の認知科学的研究を紹介し、その脳内メカニズムにも迫ります。

INFORMATICS

お問い合わせは／
名古屋大学 情報学部・情報学研究科 庶務係
office@i.nagoya-u.ac.jp

事前参加申込は必須ではありませんが、配布資料の準備等のため、事前登録にご協力お願いします。
セミナーの詳しい情報は　https://www.i.nagoya-u.ac.jp/seminar/